

福祉環境委員会記録

令和3年1月15日（金）

13時30分～14時44分

第1委員会室

【委員】柳楽委員長、村武副委員長

沖田委員、小川委員、岡本委員、佐々木委員、田畑委員、澁谷委員

【議長・委員外議員】西川議員

【事務局】中谷書記

議題

1 取組課題「子育て支援について」（委員間で協議）

2 その他

【議事の経過】

(開 議 13 時 30 分)

柳楽委員長 | ただいまから、福祉環境委員会を開会する。

1. 取組課題「子育て支援について」(委員間で協議)

柳楽委員長 | 皆へ、政策提言案という形で正副委員長と事務局とで相談しながらつくったものを送っている。事前に見ていただいていると思うので、皆から意見をいただきたい。

表題も勝手に上げているので、題についても皆から意見をいただいてつくりたい。これは、これまでの意見をまとめたものがないと先に進めにくいという意見があったため、とりあえずつくったものである。意見があれば率直に言っていただき、修正等していきたい。よろしく願います。

田畑委員 | まずタイトルからか。

柳楽委員長 | タイトルは後からでもよいかと思う。内容について、これまで4項目に分けていろいろ意見をいただいてきたものを括弧書きで上げている。(1)は丸の数字で要望なりをしたい項目を6点上げているが、(2)からはそういう書き方にしていないので、そのあたりもつくり上げていかないといけないかもしれない。こういうものをつくるには時期が早いのではという意見もあるかもしれないと思うが、皆の率直な意見をいただきたい。

中谷書記 | 政務活動費を使つてのアプリの視察は、これに上げてよいか。

2の調査内容に日付だけあって、右側に何も書いてないところは皆に手分けして行っていただいた視察の部分なのだが、委員会として行ったものではないので委員長もここに書かれていない。ただ、先進自治体の取り組みのところで視察に行ったと書いているので、入れてもよいのかなとは思っている。

澁谷委員 | この調査内容はどうでもよいことなので、最後でもよい。

柳楽委員長 | 認知症のときにこういう順番でやっていたので、そのまま持ってきた。

澁谷委員 | あのときは内容が結構煮詰まっていたから追加で入れた感じだったが、今回はこのような上に来てしまうと。

柳楽委員長 | では後にしようか。

澁谷委員 | どうでもよい内容である。結果が全てなので。

柳楽委員長 | 了解した。では一応、調査項目、先進自治体の取り組みのところで上げているので、その日程は入れたいと思う。

そのほかで意見をいただきたい。多分今日は細かいところ、例えば文章的なところまでは出にくいと思うので、それに関してはまた後日、皆の意見を文章にして提出いただく形も取っていきたい。

村武副委員長 | 全体的な検討となると、皆意見を出しにくいかもしれない。項目

柳楽委員長

ごとであつたり、主に意見をいただきたいのは提言事項の内容。

では、提言事項について、まず(1)の子育て世代包括支援センターの機能充実のところ、ここは具体的なものを上げさせていただいている。これは必要ないとか、もっと具体的にとか、そういう意見があれば願います。

小川委員

基本的なところがわからない。僕の認識が違っているかもしれないが、政策提言案になっているが、今までの流れでいうと、委員会の中で議論が煮詰まっていて、機運が高まった場合には提言をしたり、条例でもつくろうではないかというのが最終ゴールという感じがしたのだが、特に今年度は視察もなかなかできなかったし、まだ気持ち的には政策提言ができるレベルまで議論が煮詰まっているのか疑問がある。何度も読んだが、その中で感じるのは、検討内容の中間的な取りまとめみたいになっているのでは。それを執行部側に、福祉環境委員会の政策提言だといって出すまでの内容なのかと、率直に感じた。特に今回の子育て環境をテーマにした背景についても、少子化社会の原因などについても、どこか一面的な見方になっているのではないかと感じる。

最終的に政策提言をゴールとして目指すなら、皆と腹合わせしておきたい。もしこれを文言修正しながら、任期中に執行部に出していくことを目指すなら、それに向けてお互い知恵を出してよりよいものにしないとだし、皆はどうか。

柳楽委員長

これまでの委員会の中で、できれば5月、6月あたりを目指してやっていくのがよいのではないかと言わせていただいていたと、私は思っていた。そういう意味で、もう1月も中旬に差し掛かっていることを考えると、政策提言に向けて具体的な形として持っていったほうが、皆も考えやすいのかと思ってこういう形で出した。

本当にこれはざっとしたものなので、この形から皆の意見で修正なりし、全く違う文章になってくるかもしれないと思っている。皆の意見をしっかり出していただけたらよい。

小川委員

5月、6月あたりを目指すというのは、そのあたりに執行部へ政策提言を提出する前提か、それともそれまでにまとめてそれ以降に出すのか。日程のゴール設定を6月末にするなら、そのようにスケジュールを立てないといけない。

柳楽委員長

今年10月が改選の年なので、この委員会で一つのをできれば作り上げて提出するのが一番理想かと思っている。ただ、そこまで煮詰まっていないものを出すのはどうかという意見が皆から出れば、提出はできないと思っている。そういうところも含めて皆の本当の気持ちを聞かせていただきたい。最終的に任期のことを考えたら、遅くとも9月定例会議までに出すのがよいかと思っている。これはやはり皆の総意でないといけないので、そういう意味でも意見をいただきたい。

田畑委員

9月定例会議がよいのか、6月定例会議がよいのかは別として、こ

こまで子育て支援について協議してきたものを我々の任期内に市長に伝えていかないといけない。準備が整わないなどの問題は別として、任期中に必ずやらねばならない事項であると思う。この委員会でも精力的に議論しながらまとめ上げていきたい。

岡本委員

例えばこの中で、母子手帳アプリなどはこの間から既に執行部を交えてやっている。そういうものは中間報告を含めてやったほうがよいのでは。これが8月、9月になると執行部は多分新たな動きをするだろうと思う。そうすると今まで詰めているいろいろな話をしたものが実を結ぶのか、もしかしたら全然違う方向へいくかもしれない。これを機に提言としてまとめていったほうがよいだろう。

小川委員が言うように、福祉環境委員会の幹となるような提言はこれから詰め込んでいって、とりあえず市民からの要望に対して我々は動いてきたのだから、その実現というか、提言になるか中間報告になるかわからないが、やるべきではないか。

柳楽委員長

私の中でも母子手帳アプリは具体的に視察もしたり、担当者の話を聞いたりもしたので、これだけでも提言という形で出せないかと、急いでやったほうがよいと思っている。

澁谷委員

政策提言となると政策討論会を開いて全議員で議論して、それが承認されれば議会の総意として執行部に提出するのだが、その政策提言のレベルまでいくのかと思う。子育て支援となるとかなり予算がかかる。それに触れないままの提言をしても、ほとんど意味がない気がする。いつも言うように、3歳以上の保育料が無料化になったことで浜田市は年間6千万円の負担が減った。それについて執行部側は第3子以降の保育料無料化と、第3子出産祝い金30万円と言った。自治区制度等行財政改革推進特別委員会でも、職員の時間外手当が年間1億5千万円あるので、その20%削減を図って高校生までの医療費を無料化するような申し入れをした。だから申し入れという形ならそれほどハードルは高くないのだが、提言となるともっと調査分析を徹底しないと、少し表面的になりやすい印象を持っている。

我々は特別委員会で昨年9月に5項目の申し入れをしたが、実際は6月にしたほうがよい。サマーレビューが始まるまでに。9月だと翌年3月までに予算化するのなら、根幹を変えなくてはいけなくなってしまう。6月までなら市長部局も腹入れと財政との調整時間ができる。それを考えると、委員長が言われたように、できれば申し入れでも何でもよいので、6月には形をつくったほうがよい。

子育て世代包括支援センターの機能充実というのは誰もが思っていることで、恐らくこの内容について執行部がまともに考えてないようには僕には見えない。執行部も3億円かけて新設する以上は、それなりの準備やノウハウを蓄積しようとして研究していると思う。そういう実態をつかんでないままに今後6項目を言うのはどうなのか。

柳楽委員長

アプリについては、表現はあるにしろすべきである。そういったところで、この提言案が送られた段階で、正直少し戸惑った。

(1)の子育て世代包括支援センターの6項目については、①に関してだと人員等はきちんとこの3職種を配置することは考えられているが、教職経験者の配置は執行部は現時点ではやる方向性ではないので、ここはやっていただきたい。

対面相談に抵抗のある方へのアプリを活用した相談も、執行部に確認して、すぐにこういった形の相談窓口を設けることは考えていないとのことだった。

就学児に関しても、とりあえず子育て支援センターで何かしてもらおう方向にもないと聞いている。

保護者同士の交流の場ということも、多分現時点では考えていない。

就学前健診などの機会を使って親学の間を設けるというのも、今のところは具体的には出てきてないし、ファミリーサポートセンターも話はしてあるのだが、具体的にやるとは聞いていないので、できてないところではないかと思う。

一応この6項目は、皆のこれまでの意見をもとにここに上げているので、そこも含めておかしいと思う点は言っていたいて、修正なり削除なりしたい。

小川委員

澁谷委員が言われるように、申し入れの形ならできる部分はあるだろうが、最終的に提言まで持っていかどうか。サマーレビューまでに何らかの形でまとめる場合に。必要性は田畑委員が言われるようにあると思う。だからどこまで持っていか。申し入れ程度なら何とかまとめられるかと思うが、提言となると「はじめに」だけでも一部分的ではないだろうかと思う。特に今、子育てどころか、コロナの影響で女性の自死者が去年に比べて倍になっている。島根県は仕事をしながら子育てしている女性の割合が一番だということもあるが、その中でどこに焦点を当てるか。執行部も人口減少問題や少子化問題は一つの要素だけではないという言い方をしている中で、これを読むと子育て支援策を充実させれば一気に夢が膨らむような印象を受けるのだが、雇用問題や今の社会のあり方も含めて、もっと言えば、提言というならむしろ今の政府のあり方に対しても、いくらか問題点があるとすればそこをきちんと指摘することも必要ではないか。政府の子育て支援策が不十分だからこういう事態になっているということもある気がする。そういうことを一切伏せておいて、浜田の現状の中でどうすれば子育て世代の負担が軽減できるかだけを見て支援するというのも、一つの考え方かもしれないが、働きながら子育てせざるを得ないような経済的な事情がある中で、トータル的に考えたときに、福祉環境委員会とすれば専門的な部分として、ここへ焦点を当ててこの中で何とかそれにつながる施策はないかと知恵を出して、アプリの問題や孤立化防止のた

めの何らかの支援策が必要ではないかと議論してきた。それをこういったところが弱いからどうですかと市に投げかけることは必要だと思う。アプリについても意見交換をしたが、市も研究をされていて、かなり詳しい知識を持っておられて、市とすればアプリ導入よりほかの方法のほうが有効ではないかというような見解を持っている。こちらの提言では、とにかくしなさいとなっているが、本当にそれが有効かということを執行部は疑問視している。それを乗り越えるだけの根拠も合わせて提言するなら、それは一つの方法だと思う。この提言内容を見ると、一般質問の中身を並べて出した程度で、それを提言とするのはどうなのか。

最終的なゴールを申し入れという形にするのか、提言にこだわるなら提言でもよいと思うが、それにふさわしい中身になるよう知恵を出せばよい。そこだけは腹合わせしておく必要があると思う。

柳楽委員長

皆の意見を聞きながら、これを作成したのが逆に悪かったのかという気もしてきたのだが。ここに示しているのは、あくまでも皆からいただいた意見やこれまで出してもらった文章等をもとに、こういう形でやっていったらよいのではないかということできつくりと出させてもらっている。これで出そうというわけではないので、まずそこはわかっていたきたい。

今のように、皆から本当に率直な意見をいただいて作り上げていかなければいけないと思っている。これはただ書面上、こういう形のものでどうだろうかというようなものなので、そこは理解しておいていただきたい。

今、政策提言ではなく申し入れの形で出してもよいのではないかという意見があった。これも、政策提言までのものにはなかなかならないので、申し入れの形で提出したらよいという意見でまとめれば、それはそれでよいと思う。

逆に、皆はこれを政策提言まで持っていきたいという思いがあるのか確認させていただきたい。澁谷委員から、サマーレビューに間に合わせようと思えば6月くらいには提出しないといけないという意見もあった。それまでには政策提言としてまとめられないという思いがあるなら無理だと思うし、この委員会できちんとしたものをつくり上げていきたいなら、そうできる形でスケジュールなどを持っていかなければいけない。

岡本委員

確かに政策提言に対する裏づけとしては、資金的な話をこちらも十分腹入れして説明してやることは必要だろう。現状では、実際こういうお金が余ってくるという要素があるのではないかという意見が委員から出ている。これを一つの突破口にして、子育てもしくは福祉に使えないかという点に着地させるような提言をすることは、間違っていないと思うし、これを先延ばししたら、新たな予算措置で動かれると厳しいこともあるだろう。予算をこういうことに使ったら子どもが増えるのではないかという思いがあるのだから、6月ま

でに着地点に持っていくことも一つの形だろう。

申し入れはそれで一つの形をつくっておいて、現在やってきたものから予算措置を含めてどういう提言ができるか、6月にめどを置きながら、再度予算的なものも含めて勉強してやるのも手だろうし、もともと議員は政策提言をすべきだという話がこの期において出ているのだから、できるだけそこに向けて活動していくことは必要だと思う。そういう方向で申し入れと金額をベースにした提言を考えたらどうか。

佐々木委員

今まで意見が出ているように、政策提言をするところまで持っていくのが委員会として一番大きな機能を果たすことになると思うが、それには先進状況を見たり勉強をした上で、結果的にこうなるというところまで理想を示していかないと、思いつきのようなもので行ったら決していけない。そうなるとかなり専門性がある内容を我々もやっていかないと非常に難しい。

その反面、今まで子育て中の方やサロンの状況の話、あるいは子育て支援拠点施設の状況など、いろいろな調査を一生懸命やってきた中で、子育て世代の声は我々のほうが担当課より聞いている部分があるかもしれない。一番残っているのが、弥栄の子育てサロンで、小さい公園をつくってほしいと29年間言っているのに、一切それにはそしらぬ顔で、膨大な基金があるにもかかわらず要望が叶わなかったと言われたこと。ぜひ我々がしっかり伝えて、できるかどうかはわからないが要望の一つとして入れ込む。そういったものを積み重ねた要望という形で、市民の声、行政に対して思っていることを代弁するのが、まずはできることではないか。それならば5月、6月くらいでできるのでは。それは提言になるのかもしれないが、執行部側に提言と言うとおこがましいのではないかと思うので、要望という形で早急にできるとすればそういうことなのかと感じている。提言となると重いので、もう少し積み重ねが必要かと思っている。まずは要望の形のほうが作りやすいし、執行部にも言いやすい。

澁谷委員

子育て支援のことをずっと言ってきたが、執行部の今回の第3子以降の保育料無料化と第3子への出産祝い金は20年前の政策である。今は学校給食や医療費を無料にするなど、多くの人へ還元できる政策に全国の自治体は進みつつある。前回の認知症条例をつくる時は、視察に行つてそれをもとに政策提言をして、それならということで全国の認知症条例をまねて提案したが、本来なら子育て支援も同じである。先進自治体は皆子育て支援条例をつくっている。それを見ると、前文からもうハートが熱い。執行部の考え方が違う感じがする。だから子育て支援条例の原案をつくってみようという気にならないくらいの乖離がある。そういうことも考えると、佐々木委員が言われたように、いろいろなことを考えながら1年の成果をまとめていくのがハードルは低い気がする。

今出生数が350人を割り、来年は恐らく300人を割るだろうとい

う悲壮感が執行部にほぼない。結果的にそうなるだろうくらいの感じなので、それに対して予算組みもできない議会が何を言ってもすれ違うだけなのかという気もしないでもない。

柳楽委員長

私としてはこれが例えば政策提言であっても、要望や申し入れであっても、とにかく子育て支援としてこういったことに取り組んでいただきたいということを伝えたいという思いしかない。政策提言となると本当にいろいろな調査もしながらやっていかないといけないという意見が多いようなので、とりあえずは要望という形にして、皆で意見を出しながらまとめていくということによろしいか。

田畑委員

去年の3月から子育て支援について政策提言をしようという、この委員会の思いとしてスタートして、協議や勉強会や意見交換、いろいろなことをやってきた。澁谷委員が言われるように予算が伴えばサマーレビューに間に合うように6月にはきちんとしたものを出さないといけないと思う。それが政策提言から要望に変わるとするのは、効果のないような要望、子育て支援に対して執行部が本当に聞く耳を持った施策をしてきたかと言えば、決してしてないと私は感じる。要望となると軽いと感じるので、良し悪しは別として予算がどのくらいかかるかも含めて、6月定例会議に政策提言が間に合うようにしていくべきである。要望でもよいかもしれないが、効果はあまり期待できない。委員会として取り組むのであれば、やはり提言だろう。

佐々木委員

確かに提言のほうが重いが、提言を聞くかどうかは執行部の判断なので、要望だろうが提言だろうが執行部が大事だと思ったらやってくれると思う。提言だから聞くということは多分ない。しかし提言となると、それなりの中身で説得力のあるものでないと向こうには通じない。

田畑委員

提言という言葉の重みは違うと思う。

澁谷委員

申し入れなら3か月もあれば委員会のできるが、提言はやはり1年かかって議論したりする。

田畑委員

もう1年かけている。

佐々木委員

時期が悪い。あまり動けない。

柳楽委員長

それでは、まとめるのが難しいようなので、とりあえずは要望、申し入れという形でやっていこうという方向性で、あくまでも政策提言に近づけていける、そういったことにしていきたいと思う。なかなか調査に行くのは難しいが、先進自治体の事例が書物やネットで調べたら出てくると思う。ぜひ委員から、こういう事例があると示していただいて、それもしっかりと検討材料にしたいのでご協力いただきたい。

題は政策提言としているが、このところは子育て支援についての要望ということで進めていきたい。

一応ここに文章を示しているが、先ほど「はじめに」の部分について意見があったように、例えば「はじめに」に当たる文章は、自

- 分がよいと思う意見をお持ちだと思つるので、各委員の思いを文章にして提出していただいたらよいと思う。現状と課題についても、これまで提出していただいているが、要望書として出す場合に、こういった形にしたほうがよいのではという意見もあると思うので。
- 佐々木委員 澁谷委員がよく言われるのだが、給食費無償化など、これは恐らく全国的な流れで、幼児教育も無償化になったし。プラスそれまでの乳幼児期のお金がかからない子育ての仕組みを、根本的に実現してもらいたい問題としてある。具体的にこれとこれと言うことも必要かもしれないが、トータルで幼児期から高校までの間にいかにお金がかからない制度ができるか、そういうものが根本になってくる。子育てしやすい、費用がかからない、あるいはいろいろな心配事が解決できるような子育ての仕組みのあり方といったところであるほうが、しっかりした内容になる。大ざっぱな形のほうが主張しやすく、出しやすいのでは。必要なことはもう決まっているので。
- 柳楽委員長 佐々木委員が言われるのは、これまで皆に4項目について意見をいろいろ出してもらってきたが、4項目に分けるのではなくということか。
- 佐々木委員 トータルで分けておいて、4項目に分ける形もあるだろうし。やり方はよくわからないが。
- 岡本委員 いずれにせよ方向性を示してあげないと、意見の着地点がないと委員長も困るだろう。
- 柳楽委員長 これまで4項目で皆に意見を出していただけてきたので、それを全く無視した形にするのも難しい気はする。佐々木委員が言われたような形で、全てを見た上でのものというのが、例えば「現状と課題」につけるのか、それとも「はじめに」で出すのか。何か別の項目をつくって入れるのか。そういう形にしないと難しいかと思う。せつかく4項目にそつて皆に意見を出してもらったので、ここをまたやりかえるのはどうなのか。
- 岡本委員 もう4項目をやっているのだから、接続の方法はあると思う。新たに一からやるようなことがないようにしないと。4項目を主旨に文言の修正や校正などをやって、要望書になるか申入書になるかわからないが。文章の中に思いがないと執行部に伝わらないから、委員から意見を出して、それを加味してもらつてということはどうだろうか。まとめる方向へいかないか。
- 柳楽委員長 一応この4項目で今まで意見が出されたものは、項目ごとに出していくということで。全体の文章はまた別物として上げていく形でやりたいが、よろしいか。
- (「はい」という声あり)
- もし何か、こうしたほうがよかつたのにとつようなことが後から出てこないように、この場でしっかりとつておいていただきたい。そのほかにも何か意見があればお願いする。特にないか。
- (「はい」という声あり)

では、4項目に分けて皆から出た意見を上げているが、各項目で文章を全く違うものにしても構わないので、次の委員会までに皆につくっていただきたい。

先ほどの佐々木委員の意見も、できれば文章にして出してもらえればと思う。

これまでの話で、母子手帳アプリは急いで提案していったほうがよいのではという意見もあり、これまでの委員会でも意見交換の中でそういう声が出ていたと思うが、それをどうするかだが。

佐々木委員
柳楽委員長
佐々木委員

この4項目というのは、我々が発言した内容だと言われた。

はい。

それは今まで調査した声をもとに我々が発言しているということか。

柳楽委員長
佐々木委員
柳楽委員長
佐々木委員
柳楽委員長
佐々木委員

はい。

要するにこの4項目は要望ということか。

はい。

要望の中の大きな4項目がこれに当たるという位置づけか。

はい。本当はこれまで最初のときに出た意見を。

だから、今までの4項目を覆すようなものではないとは思いますが、要望はこれをまとめたような形のものです。

田畑委員

提言でこれだけのものをまとめたのだろう。今の4項目は。違うのか。

柳楽委員長

これまで提言という形で考えていたので、そういう方向でこれまで出てきた意見をここに、とりあえずざっくり出させてもらっている。あくまでこれまで出た意見を文章にしたものなので、皆の意見でいくらかでもつくりかえることができる。

田畑委員

それは提言事項としてまとめるのか、要望事項としてまとめるのか。

柳楽委員長

先ほど、とりあえず要望としてつくり上げていって、それが提言にしていける段階になれば提言にしてよいと思うが、調査も難しい中で提言として出すのは少し重いのではないかということだったので。

岡本委員

この4項目では提言にならないだろう。意見が出たのは、要望の部分と提言の部分と、という話が出ている。

田畑委員

2本立てでつくるのか。

柳楽委員長

今日の皆の意見を聞くと、提言という形のものに今の段階では、ほど遠いだろうということだったと思う。そうなれば要望としてつくり上げていくしかないのかなと。しかし私の気持ちとしたら、皆でいろいろな意見を出していただいて、最終的には提言として出したいと思っていた。

佐々木委員

そうすると先ほどもあったように、中間報告的な。要望第一弾みたいな。

柳楽委員長

母子手帳アプリについては、先にこれだけを執行部に。この項目

- だけで提言となるのか、要望になるのか、その辺の文言が私はよくわからないのだが、それは早目にやっていったほうがよいと思う。
- 澁谷委員 アプリの費用は60万円くらいのわずかな金額だったと思うが、それを財政がつけてくれて、部長がやると言えば3月に間に合うと思う。急ぐだけではまた来年に1周回ることになる。委員長はどう考えておられるか。
- 柳楽委員長 できれば早く取り組んでほしいし、この間執行部からアプリについて説明を受けたときもそういう話をして、なかなかやっていただけそんな雰囲気ではない感じもしたので、逆にそういう意見があったから、早目に出してできるだけやっていただけのような。
- 澁谷委員 早目というのはわかるが、来年度の一般会計予算か。
- 柳楽委員長 はい。
- 澁谷委員 例えば6月に補正予算でも組むくらいの打ち合わせは、まだ聞いてないのか。
- 柳楽委員長 今のところ部長の話では、アプリをやる気はなさそう。
- 澁谷委員 やる気はないが委員会としては必要性があると言いたいということか。
- 柳楽委員長 はい。部長の話は、アプリを使うのではなくホームページを充実させたいと言うのだが。
- 澁谷委員 ホームページを見てという話だけだった。しかし行くのと来るのは違う。ホームページは見に行かないといけない。
- 柳楽委員長 そのとおりである。多分これまでも一般質問などで何人かの議員が、ホームページをもう少し見やすいものにしてほしいという意見は出しているが、なかなか変わってないところだと思うので、そう考えたら、部長はああ言われるが、よほどそれに長けた職員を雇用されて、専任ででもやっていただかないと難しいのではという気もする。それを考えたらアプリを活用するほうがやりやすいのではないかと思うのだが。皆が例えば2月中にとか、この部分だけでも出そうと言っていたら。
- 澁谷委員 委員長がそれほどやりたいと思うならまとめればよい。
- 佐々木委員 この前部長が言ったのは、決して母子モでなくてもホームページでもほかの手段でもと言っていたが、本当にそれでできるのかと委員長は思っている。母子モのほうがよいと。
- 柳楽委員長 これまで使っておられるところの話を聞いても、情報を入れ込むのに作業が大変という話も出ていたが、益田ではそのようには言われなかった。
- 佐々木委員 実際、大田ではそれがネックだったのだが、しかし今では子育て世代の半数が登録していて、すごく充実しているのは間違いなかった。
- 澁谷委員 それならそれをやろう。
- 佐々木委員 委員長がその思いなら、それを第一弾という形でよいと思いはする。

- 澁谷委員
佐々木委員
澁谷委員
佐々木委員
澁谷委員
田畑委員
澁谷委員
佐々木委員
柳楽委員長
澁谷委員
柳楽委員長
岡本委員
澁谷委員
柳楽委員長
佐々木委員
澁谷委員
柳楽委員長
澁谷委員
- それをまとめて2月中にすればよい。
- 確かにホームページだと、何にしてもたどり着かない。諦めてしまう。
- ある程度、素直に聞くことが必要である。議員がそれなりに考えて提案したものは、何億もかかる事業ならだが、わずか五、六十万で。
- やってみて修正が必要だとか、そういう方法もあるのだから。やらずにいて、どうこう言う範囲ではなくて。
- 行政の結果責任に対する腹入れができてない。
- そこまで委員長に思いがあるなら、母子モだけでもよいから言葉を整頓して提言に。実際はわからないが、100万円もかからない予算でできると思う。この前の部長の発言からいくと、執行部としてやる気がない。次の子どもたちのためにも必要なこと。
- それを1本やると委員長の肩の荷が少し下りるかもしれないから、進めよう。それを整理して。
- 今までそのつもりで調査もしてきたわけだから。この間1回だけ話を少し聞いただけで進むべきというのもおかしい話なので。
- 母子手帳アプリについては2月中に、要望か提言で出していく方向で。これに澁谷委員が言われたように、保育料の無償化で少し浮いている予算を活用してといった文章をつけ加えたほうがよいということか。
- はい。まだ6千万円の使い道が正確に僕もわからない。第3子以降の出生祝い金30万円を幾ら見込んでいるのか。第3子以降の保育料は1500万円だったか。6千万円を本当に全部使う気ならまだ相当残っているはず。
- そういった予算的なことも含めて文章に落とししたほうが。
- そうやって大きな大義を出しておいて小さいお金を求めなくてよい。我々の思いさえ伝えればよいのだから。執行部の考えと我々の考えは違うのだと。
- やる気があれば、予備費でも何でも50万円、60万円は簡単なことである。
- わかった。文章はこれまで皆から出されているような意見をまとめて、正副でやってよいということか。
- 報告書で感想など書いているから。
- わかるものを箇条書きにしてもよい。子育て支援アプリを導入して、子育て支援体制の強化を図りたいと。
- ではこの母子手帳アプリに関しては、正副で文面を考えてまた皆に確認していただきたい。
- 次回以降、ほかの3項目については、皆にこういったことを入れてほしいというようなことを出してもらいたいので、そのつもりでお願いする。
- いつまでに。

柳楽委員長
澁谷委員
柳楽委員長
澁谷委員
柳楽委員長

次までに、母子手帳アプリ以外のところで。

10日後くらいまでにか。

次の委員会をどうするかによると思うが。

次の委員会にはアプリの申し入れ事項を決定しよう。

28日に福祉環境委員会がある。では26日くらいまでに、とりあえず母子手帳アプリを除いた3項目についての意見を文章で出させていただいて、28日の執行部報告事項など議題が全部終わった後に、意見交換してよいか。

(「はい」という声あり)

村武副委員長
柳楽委員長
村武副委員長
柳楽委員長

そのときにアプリも決定するのか。

そこまでに文章をつくって。

26日までに出す項目に関しては、28日の委員会に出すのか。

はい。ではそういうことで、28日の委員会のときに母子手帳アプリに関する文章を正副でつくって皆に見てもらえるようにするし、残り3項目については皆から出た意見を、前日までには皆のタブレットに送るようにする。26日が提出締め切りである。

澁谷委員

小川委員に最初の部分の原案をつくってもらったら。先ほど指摘されたように包括的な、国の政策が遅れているから少子化になって、84万人という出生数になっているわけだから。

柳楽委員長
小川委員
澁谷委員
柳楽委員長

小川委員、どうだろうか。

はい。

委員長の文にプラスする形で。

ではそういうことでお願いします。

2. その他

柳楽委員長

ほかに皆からないか。

(「なし」という声あり)

佐々木委員
柳楽委員長

3項目はまた今後たたいて、できれば提言という形でやるのか。

はい。せっかくこれまで皆から意見をいただいているので、そこはやりたい。

田畑委員
小川委員
柳楽委員長
佐々木委員
田畑委員
佐々木委員

弥栄は子育て広場がほしいという話か。

公園が、自治区の一つくらいほしいということ。

公園を先にやってもよいが。

すべり台などの遊具が一つもないらしい。

体験村は撤去したのだったか。

遠くに行けばあるらしいが、天気がよいから少しその辺に行って遊ぼうかという場所がないらしい。

沖田委員

前まで保育所を土日に開放してもらっていたらしいが、水道の蛇口が出しっぱなしだったとか、遊具が片づけてないということで、結局使えなくなってしまった。

田畑委員
沖田委員

それは使用者の責任だろう。

東屋とベンチがあるだけで子どもとハイキングができるのだが、

- それすらないと言われる。聞いていてかわいそうだった。
切実な思いである。
- 澁谷委員 しかもそれが約30年、ずっとお願いしているのに。
佐々木委員 弥栄は地域振興基金が30億円くらいあったらろうに。
澁谷委員 基金は体験村などそのほかの事に使われたが、弥栄のお金の使い
佐々木委員 方を少し考えてもらえたらよいなと思った。
- 田畑委員 弥栄自治区あたりは30年間もという部分、行政の責任でもあるが
議員の責任でも、地域の責任でもある。
- 佐々木委員 声が届かなかったということ。
澁谷委員 地域井戸端会ではそういう声がなかった。
佐々木委員 来てなかったということもある。だからそれを今回我々が聞いた
のだから、大きな成果と言えば成果である。それをいかに実現させ
てあげるか。
- 柳楽委員長 (3)のここが適切だったかわからないが、子育ての地域支援の後
半部分に、公園のことに触れているのだが、それこそ予算が必要な
ことなので、もし早目がよいなら母子手帳アプリと一緒に公園の項
目を出してもよいのではないか。
- 田畑委員 公園のことを出すなら、弥栄だけの問題ではなく、バランスよく
調べないと。
- 柳楽委員長 金城でもそういう意見が出た。
田畑委員 弥栄には確かにないかもしれないが、金城は満足しているか、三
隅はどうか、浜田市内は市街地、東部、西部、上府、有福のあたり
はどうか、よく調べてやらないと。
- 佐々木委員 現実として声は上がっているわけだからそこは必要で、あとの地
区については執行部に調べてもらい、できる部分はしてもらおう。
- 柳楽委員長 基本的に、これまであった公園について遊具は老朽化したらもう
廃止で、新たに購入しないという流れになっているので、本当にそ
れでよいのかということはある。せめて1か所。
- 田畑委員 やはり管理する上でも責任が生じる。あちこち遊具を置いてもよ
いのだが、それを誰が管理して、チェックして、使用禁止にするこ
とも全部含めてやらないと、ただ置いてほしいでは。
- 佐々木委員 それは管理者、設置者が当然すべきことである。
岡本委員 そういう話でまとめられるのか。
村武副委員長 大切なことだと思うのだが。
澁谷委員 やってみて、それで判断しよう。
柳楽委員長 では先ほど言ったような流れで、26日に皆から文章を提出してい
ただくようお願いする。
- (「はい」という声あり)
- 以上で福祉環境委員会を終了する。

(閉 議 14 時 44 分)

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

福祉環境委員長 柳楽 真智子 ⑩